



金融ミュージアム

Otemachi

The Museum of Finance, Otemachi

あなたと「金融」が、出会う場所

朝日中高生新聞
Asahi Student Newspaper

高校で必修となった「金融教育」。しかしまだ日本では、“お金のこと”をオープンに話すのをタブーとする風潮もあるようです。そんな金融のイメージを変えたいとつくられたのが、三井住友銀行の「金融ミュージアムOtemachi」。

この施設を、朝日中高生新聞子ども記者の高橋美蘭さんと薄井優太さん、タレントの高山一実さんの3人が訪れ、三井住友銀行の樋口由輝さんの案内で金融について楽しく学びました。

まずはこれから

1

ランドスケープ

金融／知のLANDSCAPE

「知の柱」に触れて、興味を刺激されてみよう

「金融／知のランドスケープ」は、モノリス（知の柱）と呼ばれる柱に映し出されるコンテンツ画像を選びながら、金融の知識を深める場所。7本はそれぞれ「ライフ」「グローバル」「エコロジー」などのテーマ別に色分けされています。細長い柱の下から上へとゆらゆらと流れていく言葉や人物の顔から、興味のあるものをポンッとタッチするとその画面が説明に変わる仕組みです。

「コンテンツは全部で600ほどあります。ぜひ、押してみてください」と樋口さんに促されて、高山さんが選んだのは「キャッシュレス」。画像が切り替わり、1960年代から始まったクレジットカードの歴史やITの普及によって銀行業務が多様化していった歴史についての説明を読むことができました。さらに、選んだコンテンツに関連した言葉が生まれ、根っこのような線につながり、さらに読み進められます。難しい言葉ばかりではなく、「さあ、家を買おう」「きっかけはサイフを忘れた」など、謎かけのようなものもあります。高橋さんと薄井さんも画面をタッチしてみます。「興味のあるものを自分で選べると、楽しく勉強できます」（高橋さん）、「一つを押すと、関連した言葉が次々と出てくるので、どんどん学べます」（薄井さん）と、気になる言葉から探求を深めました。



「押す」ことは、無意識のうちに「知りたい」につながっています。興味から学びかけを作ってくれるので、楽しく金融の知識が身につけられると思いました！

さらに深掘り！

モノリス（知の柱）には、金融の歴史や知識などのほかに、お金にまつわる格言も多く収蔵されています。また、どんな人がその格言を言ったのか、プロフィールなども紹介しているので、様々な角度から学びを得ることができます。モノリスの裏には、「三方よし」や「地球は先祖から受け継いでいるのではない、子どもたちから借りたものだ」（作家・サン＝テグジュペリ）など、金融にも関わることわざや格言が書かれているので、訪れた際にはチェックしてみましょう。



体験している動画はこちらから！

昔のお金なんて見たことなかった！種類もいっぱいあるね。

金融ミュージアムOtemachi

三井住友銀行東館ライジング・スクエア 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-3-2 三井住友銀行東館2階

営業時間 9:00～18:00（入場無料、年末年始は休館・その他不定休あり）

https://museum-of-finance.com/



【お問い合わせはこちらから】

TEL 03-6706-9020（受付時間 10:00～18:00※平日のみ）

MAIL info@rising-square.jp

次はこちら

2

フィナンシャル アーカイブズ

Financial Archives

VRでそこにいるかのような映像体験をしよう

「フィナンシャル アーカイブズ」では、神戸にある三井住友銀行の「貨幣資料室」をVRで体験しました。「実はこれ、貨幣をズームして見られるので、神戸の貨幣資料室より鮮明に見られるんですよ！」と樋口さん。さっそくモニターの貨幣資料室の入り口から、矢印に従って中へと進み、気になる場所をタッチすると、3面の大きなモニターに貨幣が映し出されました。

「今日は資料室にある貨幣をいくつかプリントしてきたので、VRでどこに展示されているかを探してみよう」と言われ、3人でさっそく探索を開始。まずは江戸時代に作られた黄金色の慶長大判を見つけ出すことができました。その後も、明治10年に発行された「水兵1円札」や、昭和5年に発行された「1次10円札」を見事に発見。

樋口さんは、「この1円札も10円札も、現代の価値で換算すると同じ5千円ぐらいです。数字の位は違いますが、時代とともにお金の価値は変わります。お金の価値とはどういうものなのか、考えながら見ているのも面白いかもしれません」と教えてくれました。



今まで知らなかった、初めて見る貨幣がたくさんありました！歴代の貴重な貨幣を高画質で見られるのは、子どものみならず大人にとっても勉強になります。



体験している動画はこちらから！

慶長大判は今の価値で数千万円になるものもあるんだって！



さらに深掘り！

「貨幣資料室VRは、古代貨幣（貝貨〈はい〉）などから江戸時代の大判・小判、さらに各時代の紙幣、外国紙幣や記念硬貨まで、貴重な貨幣を高画質で見ることが出来ます。また「フィナンシャル アーカイブズ」にはもう一つ、金融経済教育についてのコンテンツもあります。こちらは、生活設計・家計管理、金融トラブルなどに関する様々な教材を、イラストを使ったショートムービーでわかりやすく学習することができます。

最後はこれ

3

フィナンシャル ミッションズ

Financial Missions

ゲームを進め、楽しみながら「お金」を知ろう

「こちらのフィナンシャル ミッションズは、未来から来たお金に困った人を助けるゲーム感覚のコーナーです」との樋口さんの言葉に、「楽しそう！」と笑顔になる3人。「貯める」「借りる」「育てる」の三つのテーマから、高山さんが選んだのは「育てる」。金融資産を増やす手段として「預貯金」「株式」「投資信託」のことが紹介されました。お金が貯まらない未来人のために、この三つを上手に組み合わせ、元手資産100万円をゴールまでに増やしていくのがミッションです。

途中で出題される3枚のカードから未来を予想して、資産がなるべく増える1枚を選ぶのがポイント。3人は、「難しい」と言いつつも、カード選びもうまくいき、見事に増やすことができました。

ミッションの後は、「深掘り学習」の時間。金融商品の「リスク」と「リターン」は比例する関係であること、資産はリスクを極力低くするために「長く」「分けて」「コツコツ」運用することが重要だと習いました。



さらに深掘り！

フィナンシャル ミッションズではほかに「貯める」「借りる」という、資産形成に欠かせない二つの項目についても学べます。「貯める」で大切なことは、家計管理。出費をやりくりしながら、アクシデントも考えつつ余裕をもって貯めていくのがコツです。「借りる」では、クレジットカードを使って後払いで買い物をする際のポイントや、「買う」「引き落とし」のサイクルで勉強します。ミッションをクリアした後の「深掘り学習」も重要です。しっかり見ておきましょう！



体験している動画はこちらから！

一番気になっていたのがこのコーナー！「育てる」のミッションでは、実際に金額が増えたり減ったりするので、ハラハラドキドキしてしまいました。これなら、子どもたちも夢中になりそうですね。



体験を終えて……。お金のことがもっと知りたくなりました！

高山一実さん

金融については、家でも父親がよく話題にしていたので、小さい頃から興味がありました。今日は高橋さんと薄井さんに癒やされながら、楽しく学ぶことができました！どのコーナーもタッチパネルで自分の興味のある事柄から、金融の知識を深めていけるのが良かったです。

高橋美蘭さん(高校1年生)

公民の授業の中でも特に金融について学ぶのが好きです。円安ドル高など為替について習いましたが、金融は数学のようにはっきりとした正解がない点にひかれます。今日は知の柱をはじめ、知りたいと思ったものから金融の知識を広げられるところが楽しかったです。家に帰ったら、今日学んだことをもっと調べようと思いました。

薄井優太さん(中学3年生)

今日はたくさん金融のことを学べました。特にフィナンシャル ミッションズのコーナーで、ゲーム感覚で資産形成を考えながらお金を増やす体験をできたことが面白かったです。公民の授業で少し習っていますが、自分にはまだ遠い話だと思っていた。まずは今日知ったことを家族に話してみようと思います。

わたしたちが参加しました！

高山一実さん

たかやま・かずみ / タレント・俳優・小説家。1984年生まれ。女性アイドルグループAKB48の元メンバー。テレビやラジオなどを舞台に活躍する一方で小説も執筆。2024年、初の長編小説「トラベジウム」がアニメーション映画化された。



3人が体験しているダイジェスト動画はこちらから！

ゲーム感覚だから難しい資産形成のことも楽しく学べます！

